

# 北 ぞらくろあ

第85号 2023年4月1日（毎月1日発行）

## 芸備線ストロール⑬ 備中神代駅

### 「芸備線の最終駅 岩屋天神と親子孫水車」

#### 岩屋天神と親子孫水車

3月13日月曜日の朝、車で家を出る時には、昨夜の雨がまだ少し残っていた。沿道の西城川が増水して、水音が荒くなる。山間の川は、まとまった雨が降ると性質が一変する。一時間半余りで坂根駅に到着。雨は上がっていた。

の人がいるのに気づいた。青春18きっぷを使って気ままな一人旅を楽しんでいる方で、他の乗客もそうなのだろうと推測。ちなみに、3月1日から4月10日までが、青春18きっぷの利用期間である。

駅名は神代村に由来するが、駅の所在地は新見市内。旧神代村の中心地に近い場所だったのだろうか。神代の由来は伊勢神宮の御厨（みくりや、神社の荘園である神領）だった事だと考えられている。

977年）で見ることができ。主人公の寺田辰也（萩原健一）を父方の縁者の森美也子（小川真由美）が駅前を出迎えるシーン。備後庄原の旧駅舎に似たどっしりした建物だった。平成13年（2001年）、門構えだけを残して駅舎を解体、木造の待合室が設置されたのだが、それも取り壊されて、昨年12月に現在の姿となる。

9時14分発の新見行き（土日運休）に乗車、珍しく（失礼）乗客が5人いた。降車時に、顔見知り

備中神代駅は、昭和3年（1928年）に伯備線の駅として開設された。昭和五年に矢

現在の駅舎は簡易化されてしまったが、かつての古い木造駅舎を映画の「八つ墓村」（1

トイレに行こうと思っただけ、駅の周辺やホームを探しても見当たらない。芸備線と伯備線が交差する駅だが、乗り換えは新見駅で済みますのでこの駅で待機する人もなく、トイレも必要ないということか。坂根駅のトイレに入っ

駅は人工的な佇まいだが、駅前には古い木造の自転車置き場が二棟、残っている。「中学校1年女」「中学校1年男」といったプレートが複数貼られているが、駐輪している自転車は1台だけだった。

駅前通りを右に行くと、トンネルの前に踏切があり、それを渡って山沿いの道を進むと、川原に降りる小道がある。神代川は備中神代駅の手前で西川（にしがわ）に合流する。



路線図の中で、芸備線は「高」～「備中神代」です。

遠景に山なみを抱いた広い川原で休息。子供の頃に蠟石と呼んでいた白い石が多いのに驚く。柔らかいので、チョークのように壁や道路に白い線を描いて遊んでいた。

駅前に戻って、今度は左に進む。宿屋だったと思われる建物が何件か認められる。二階の出窓に欄干が設えてある。この地域でも、鬼瓦に大黒様の顔が使われている。坂根駅で見つけて以来、気になって確認するようにしているのだが、庄原市や三次市でも大黒様の鬼瓦が多いことに気づいた。それだけ石州瓦が備後、備中地方に広まっているということだろう。

西川の金付橋の手前の道を右に折



れて、山の方に向かった。坂道を登った先に「神郷中学校」の校舎がある。正門の近くに「閉校記念碑」、「平成28年3月20日閉校」と刻まれている。駅前の駐輪場のプレートは、この生徒ため……だった。校舎の壁にかけられた時計のガラスカバーに「贈・平成17年度卒業生一同」の文字。太陽電池式なので、今でも正確な時を刻んでいる。

金付橋を渡って、町中の旧道を通り抜けて国道182号線に出る手前の高台に、「元陸軍大将宇垣一成揮毫忠魂碑」がある。忠魂碑とは戦死した出征兵士の魂を慰霊するもので、地元の戦死者の名前を刻み、地元縁のある将官に表の碑銘を揮毫して



もらうことが多かったという。裏面に「昭和二十五年五月再建 神代村遺族會」と刻まれている。戦後のGHQの統治下で、軍国主義の象徴としてかなりの数の忠魂碑（忠霊碑、尽忠碑、碧血碑などの碑銘がある）が撤去されたが、再建とはいえず、戦後になって建てられたのは珍しい。

宇垣一成（かずしげ）について調べてみたが、ウィキペディアには「水呑百姓の末子の五男」と書かれている。立身出世をして陸軍大将となり、宇垣閥と称される勢力を築いて陸軍大臣になった。政治家として朝鮮総督や外務大臣を歴任、首相候補として何度も名前が上がっていたという。戦後に最高得票で参議院議員になっ

たが、在職中に87歳で死去。「昭和天皇独白録」では「この様な人を総理大臣にしてはならないと思ふ」と嫌われ、対抗勢力には「蝙蝠のような男」と揶揄された。魅力的な人物であることは確かなようだ。

国道182号線を坂根方面に歩いた。「岩屋天神」の立看板を見つけて、右の脇道に入る。新見市立神代小学校の通学路で、中腹にある校舎の裏側の道を登って、中国縦貫道の下のトンネルをくぐる。畑の梅の花が満開だった。道端にはヒメオドリコソウのピンクの小さな花が咲いている。

高速道路沿いの道をどんどん

登ると、林の中に朽ちかけた建物がある。やっと着いたかと確認すると「岩屋天満神社神輿庫」とある。さらに山道を登ったが、九十九折りの隘路に音を上げた。帰りに神輿庫のそばに脇道があるので歩いてみると、ようやく神社の前に到達した。天神（雷神）様にふさわしく、岩場の高台に位置している（写真上）。拝礼して、戦火終息を祈願した。

国道に戻ると、すぐ先に大きな水車が見える。「夢すき公園」の日本一の「親子孫水車」（写真下）で、大、中、小、三つの水車がある。公園内には「紙の館」があり、有料で紙漉き体験ができる。公園のある神郷下神代は、伊勢神宮の神領だった平安時代から和紙の名産地で、遠く伊勢の国に献上品として運ばれていたという。その製法が「神代和紙保存会」によって伝承されている。

隣が「キッチン神代」（水曜定休）で、スタミナランチ（税込千円）で昼食。いろいろカンパニーの直営店。離農家の牛舎や設備、耕作放棄地、放置山林等を利用して放牧畜産を行っている会社で、地元の黒毛和牛のブランド、千屋牛が生産の柱。牧場直送の肉がたくさん入ったランチで疲労回復、コロナ禍も終息気配で、そこそこお客さんも入っている。

国道に戻る。甲高い鳴声に青空を見上げると、トンビが上昇気流に乗って舞い上がっている。「天神様によるしく」と心の中で声をかけた。

# 「中村慎吾先生の死を悼む」(中編)

黒長 澳ふかし

「秋をみつける会」

中村先生の発案で「秋をみつける会」を実施しました。本村は以前からキノコの産地で知られています。吉備谷の本村の共有林へ子どもたちが朝から地域の人と一緒に入り、約六十種類のキノコを採集しました。シートに並べたキノコを、キノコに詳しい栃木先生に同定していただき、食べられるキノコを大鍋で調理して懇談しながら食べる味は格別でした。このとき採集したキノコ類は写真に撮り廊下に展示すると共に、比婆科学百三十四号の短報で報告しました。

地域住民と職員や子どもたちが交流し、お互いがより親密になった「秋をみつける会」は中村先生の地域に根ざした教育を推進しようとする企画力と実行力によるものでした。このことはその後の私の学校経営の指標になりました。

研究大会で

私は校長として赴任した学校で、赴任した年に研究大会を開催しています。西城町の道後山の麓にある三坂小学校に赴任した昭和六十一年に、中村先生から「比婆三次地区へき地複式教育研究大会」を開催するようにと指示を受けました。校舎は老朽化し、アオゲラが校舎の板を啄むような状況でした。

そんななかでも大会の構成や講演の講師の依頼など、中村先生の力添えがあつて、無我夢中のうちにも終わることができました。

アオゲラが開けた穴は、野鳥の保護活動しておられた、指導を受けていた帝釈の原田先生の「この穴を見てもらいなさい。へき地教育研究会にふさわしいです」との助言もあつて、参加者に見ていただきました。近くで野鳥の観察ができます。学校の周囲は山野草の宝庫です。裏山に少し入ると楚々としたチゴユリが群生しています。「すばらしい環境にある学校ですね」と口々におっしゃいました。中村先生が三坂小学校を研究会の会場に選ばれた意図が分かりました。

その先生方が案内するのがよい。さらに、「比婆山連峰を探ろう」(左上写真)という本を作成して参加者に見ていただくということになりました。いずれも中村先生に直接指導していただきました。県民の森の「若人の家」で合宿して研修したこともあります。

幸い当日は好天に恵まれました。昭和四十五年の大阪万博のとき、私が担任していた子どもたちの卒業記念に作製した「ミニ太陽の塔」を目印に、県下から二百六十人の参加者がありました。事前に職員が取り組んだのは、研究大会要項と、研究会場として恥ずかしくない校内の環境整備です。学校の前の水路にはウダゼリと呼ばれるいるバイカモが群生し、前方の西城川には、毎年、大附属東雲小学校の子どもたちが、道後山合宿の途中、貝の化石採集に立ち寄る最適な場所があるなど、周囲の環境は魅力的です。

校内にはこれも以前卒業記念に保護者の協力で立派な温室を建てたのですが、老朽化して撤去されていました。そのあとに簡易温室を設置し、水生植物園を新設しました。その他岩石園、淡水魚の水槽、学級園の整備など毎日が多忙でした。



# 文学探訪

## 庄原と「百三の青春」③

### キリスト教とモラル——矢内原忠雄との論争

音谷健郎

前号で触れる余裕がなかったので、倉田百三が叔母の宗藤静子に送った一高で「一番」のハガキは「存じ候（そうろう）」とした候文でした。

さらに一高校友誌への文章は修辭に富み、難解なものです。これらは、今に当てはめると高校3年から大学2年生ころの年齢なのです。百三がこの後、名だたる文学者になっていくのを考慮しても、当時の青年の学識の高さには驚かされます。このこ

とを、すこし考えて見たいと思います。

百三が一高に入学した明治43（1910）年とはどういう時代なのでしょう。文壇では島崎藤村、漱石、鴉外らが活躍していて、思想界では、「共産党宣言」（幸徳秋水訳）が紹介され（すぐ発禁に）、大逆事件の検挙が進んでいました。しかし、百三は、社会で起こっていることや世事には関心を向けず、哲学的な思索と文章

の修練にふけています。ただ、学生の間では、西欧の文学の根底にあるキリスト教への関心が高まっており、キリスト教に対しては、百三も目を向けているように思えます。

こういう背景のもと、百三は2年次の「三之助の手紙」を皮切りに一高校友誌に論文を投稿し続けます。3年次、第4番目の論文「自然児として生きよ——Y君（矢内原忠雄）にあたう」を寄稿します。

矢内原は、東大で国際経済学者の道を選び、『帝国主義下の台湾』などの名著を残しますが、日中戦争批判のため大学を追われます。戦後は真つ先に東大総長に迎えられた人物です。この一高卒業時の全寮茶話会で、総代として告別の辞を述べたので百三

が論争を挑んだのでした。少し小難しいですが、百三の人生観、芸術観、宗教観が深く刻まれているので、百三の人生をたどるのに役立つので、吟味してみます。

まず、「他人の生活態度と自分の生活態度と異なっているとき私等はどうすればいいであろうか」と問いかけます。「私はもとより個性の多様性を認めるものであるから、生活態度が異なっている、それがその人の本然の真実から生ずるものなら、その態度を理解し、尊敬することができると、やんわりとスタートします。

矢内原は一高に入ると弁論部を選び、百三も弁論部に入り、親しい間柄となつていのです。だが、舌鋒は次第に鋭くなります。

「Y君、あなたは自己生活の内省が深刻を欠いてはいないだろうか。自己の生活について自信が強すぎはしまいか。試みに周囲を見たまへ。淋しい、弱い、自信のない、大きな声を出して他人に叫ぶのは差（はずか）しいような生活をしている人ばかりではないか」

「Y君、あなたの善の観念はあまりに常識的である。告別



百三の肖像（庄原市西本町、「百三のひろば」で）



一高時代の矢内原忠雄。  
岩崎健二作画の『倉田百三』から



今も続くアライアンス教会。場所は何度か変わって今は庄原市西本町で



看板に「アライアンス教団 日本宣教開始」の文字が見えます



「青春は短い。宝石のごとくそれを惜しめ」と、百三が青春謳歌をけしかけた文言の石碑（「百三ひろば」で）

の辞は、よく昨年のと似ている。さらに一昨年のと似ている。何故に歴代の総代は毎年同じように美しい感想を述べて本校を去られるのであるうか

常識の「虚」を鋭く突きます。そして、常々考えている「自然の声」を押し出します。

「生命の最高指導者が常識的であつてはならない。まず一切の社会と歴史とより与えられた価値意識を捨てよ。天と地と数限りなき生物の間に

自己を置け。而（しか）して白紙のごとき心をもて生命の内部に湧き起る自然の声に耳を傾けよ。あなたは第一に自然児とならねばならないと。

外堀を埋めて、核心に迫っています。「あなたの宗教には肉の匂いと煩悩の痕と疑惑の影がない。人間味が乏しい。流動の趣と野生の姿がない。それというのもあなたの生活意識が常識的であつて深刻と透徹とを欠くからであると思う」と、断じています。

『出家とその弟子』に始まる初期の数々の名作はここから出発しているように思えてなりません。最後は、「終わりに臨んであなたの生命の真実なる発展をいのる」と結んでいます。

これでは、一方的すぎると思つたのか、「付記」を加えています。「Y君から一つの手紙を受け取つた。それは本当にキリスト者らしい、謙遜な、少しも反抗的な気分の含まれない、且つ美しい知恵に富めるものであつた。自分が今日キリスト者に

対して、あるツアルトな感情を抱いているのは君（矢内原のこと）に負うところが多い」といった趣旨です。

心洗われるような結末になっています。百三にとって、論争はあくまで純粋に「理想」の純度を鍛えることであり、人をやり込めるものではないのです。凶らずも、それを証明する論文にもなっています。百三が理想主義者であることの証明でした。ちなみに、矢内原は生涯、キリスト教信者の立場を堅持し、尊敬されます。

ここで百三と宗教の関係をふり返ると家伝の浄土真宗とは別に、キリスト教への親和性に思い至ります。百三は少年の日に、庄原でキリスト教のアライアンス教会に出入りしていました。結核発病などで一高を退学して庄原に戻り、上野池湖畔で半年過ごした時、この教会に出入りし、「説教」をしたりもしています。今思えば、この帰郷は傷心のはずが、読書と手紙書きで過ごし、案外さばさばとしていたように思えます。百三の再出発の足がかりになつたのではないのでしょうか。

次回は「愛の蹉跌——H・Hへの熱愛と失恋」を取り上げます。

## 10. 現代の植物図

1964(昭和39)年10月1日、東海道新幹線、東京～新大阪間が開業し、10日には東京で第18回オリンピック東京大会が開幕した。この好況に湧く中、この年、「原色日本林業植物図鑑」第1巻が出版された。「原色日本林業植物図鑑」は、1976(昭和51)年に出版された第5巻で完結し、344種の樹林が精密に描かれ、着色された全体図と花・実などの部分図から構成されている。しかし、残念ながら作画者は不明である。

これを皮切りに1966(昭和41)年、井波一雄の「日本スミレ圖譜」と津山尚著二口善雄画の「日本椿集」が出版される。次いで1971(昭和46)年に前川文夫の「原色日本のラン—日本ラン科植物図譜」が出版された。この「原色日本のラン—日本ラン科植物図譜」は太田洋愛(1910～?)が前川文夫の指示に従って日本産ラン科植物72種を忠実かつ正確に描いた全体図と花などの部分図を1枚に収め、前川の記載によって構成されている。1978(昭和53)年には鈴木貞夫の「日本タケ科植物総目録」が出版された。この「日本タケ科植物総目録」には口絵に大沢金一が描いたモウソウチクの筍などの見事な彩色図を載せ、本文は標本写真と大沢金一、一部は石井美枝子が描いた精密な標本の全体図と部分図を加えた線画で構成されている。

1979(昭和54)年、石井勇義(1892～1963)の「ツバキ・サザンカ図譜」が出版された。この「ツバキ・サザンカ図譜」は、園芸植物研究者で「園芸大辞典」(全6巻)の編著者であった石井勇義の遺族が保存されていた石井の遺稿「ツバキ研究資料」(津山尚がつけた仮題)と山田壽雄(1882～1941)の図を基に津山尚がまとめたものである。図を描いた山田壽雄は1882(明治15)年6月4日、福島県で生れた。父一美が会津藩の家臣で維新の際、会津に逃れ、医業で生計を支えていたが、一家を挙げて東京へ戻ったため、山田壽雄も上京し、早稲田中学を卒業した。中学卒業後も定職につくことはなく、好きな絵を描く日々であったという。何時、牧野富太郎と知り合い本格的な植物図の指導を受けたかどうかは不明であるが、山田は牧野を師としてその指導に忠実に従った。また、絵の用具も牧野の一流好みに感化されて、神田の文房堂の水彩絵具、木炭、ワットマン紙、消しゴムなど当時輸入の最高級品を用いた。そして、その結果は山田の植物図で証明され、牧野は山田を高く評価し、牧野の研究論文等の中に採用されるようになった。

「牧野日本植物圖鑑」(初版)の序文の最後に、「又本書ノ作圖ハ中ニ小生自身ニ描キシ者モアレド、其大部分ハ書工水島南平、山田壽雄兩君、並ビニ木本幸之助君ノ絶えざる努力ニ負フ所多キヲ以テ、今之ニ對シ茲ニ其勞ヲ感謝セネバナラヌノデアル」とある。このことから山田が描いた図を特定することはできないが、点数としては水島の図が多かったと考えられ、牧野の信用が厚かった山田の図は、水島に次ぐ点数だと考えられる。また、巻頭を飾る9図版のうち、第1図版「きばなのしょうきん」の説明の末尾に「予ハ同十三年七月十四日之ヲ相州箱根ニ採り、乃チ本圖ヲ描写セシメンナリ」とあることからこの図は牧野自身が描いたものでないことは明白である。この図を描いたのはまず間違いなく山田壽雄と考えられている。

山田壽雄の図がまとめて使われたのは、中井猛之進(1882～1952)の

虫と草木と人びとと ⑦③

中村慎吾

## 「植物画とは何か」 —日本の植物図譜を中心に— (16)

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。



図1ト伴 (ぼくはん)  
(石井勇義「ツバキ・サザンカ図譜」から)

「大日本樹木誌」巻之一 (1922) で、自序の末尾に「本書挿入の圖は余の指針に従ひ日本の Scientific artist の唯一人者たる山田壽雄君主として之を書き、他は新人洋画家の鬼才寺内萬次郎の画く所なり」とあるように山田の力量を植物画家の第一人者として評価しているところからして、1920年までには名声が知れ渡っていたと考えられる。共に中井の求めに応じて図を描いた寺内萬次郎は後に洋画界の重鎮となった。「大日本樹林誌」巻之一には272の図があるが、その改訂版(1927)には342の図が掲載されている。

中井の序文「又余の指揮に縦ひ終始一貫忠實に画を完成させる山田壽雄氏に深甚の謝意を表します」とあるところから、追加あるいは訂正された図はすべて山田によるものと考えられている。また、中井猛之進の大著「朝鮮森林植物圖編」(全22巻、1915～1939)にも図を描いているから、中井との係わりは12年に及ぶと考えられる。

## 「つれづれ歌談」34

松岡初枝

北国の雪が解け、水ぬるみ、花々が咲く春から初夏になる頃、人々はいろいろな用事で旅をする季節がやって来ます。

・立山の雪し消(く)らしも延槻(はりつき)の川の渡瀬(わたりぜ) 笠(あぶみ)浸(ひ)かすも 大伴家持 立山の雪が解けたらしい延槻川を渡る時、笠を川の水にひたしてしまつたよ…。越中国主在任中の家持、やっと寒さが去り、遅い春の感慨を歌にしました。

・塩津山うち越え行けば我が乗れる馬そ爪つく家恋ふらしも

笠金村(かさのかねむら)

現在の滋賀県にある塩津山、金村は近江から越前へ旅していました。塩津山を越えてゆくと、馬が



つまづいた。「ああ妻が行かないでと言っているんだな。馬をつまづかせたのかな」。金村は宮廷歌人で、山部赤人の先輩です。

・信濃路は今の壱道刈株(はりみち)ちかりがね)に足踏ましなむ靴履(はき)けわが背 作者不詳

いつもは裸足でも平気で歩くあなただけど、信濃の道は切り株や石が多いと聞きます。履物を履いて足を守ってね。気をつけて行つてらっしゃい。夫を防人に送り出す妻は涙ぐみながら旅の安全を祈る、夫婦愛の歌です。

・我が妻はいたく恋ひらし飲む水に影さへ見へてよに忘れず

若倭部身麻呂

妻を置いて防人に来た身麻呂、まだ新婚の妻は私を想っているんだなあ。水鏡に幻のように妻が映るんだよ。きっと妻も同じように私の幻を見ているのかもしれないなあ。

いろいろな形で旅発つ人、その人の身分や立場は異つても、故郷には大切な人が待っているのです。現在でも辛い別れがあります。万葉の人は尚更。心の中で祈るしかなかった時代の優しさが胸に迫ります。

自動扉が開く音に振り返ると、マスク顔の男と視線が合った。

「ご無沙汰しておりました」

そう言つて深々と頭を下げた。

「ああ、どうも……」

と会釈したが、やばいと思つた。まったく見覚えがない。お客の方は店主のことを覚えているが、店主の方はたぐさんの来店者の相手をするので記憶が薄くなる。

わたしの怪訝な顔に、男がマスクを取つてまた頭を下げた。彫りの深い四十年輩の顔が現れたが、困つた、思い出せない……。

「覚えてなくても無理はないです。五年以上も前に一度だけ来ただけですから」

助け船を出してくれた。

『につぼん三銃士』の上巻を買わせてもらった者です」

それでようやく記憶がつながつた。確かに五年以上も前のことだ。

「何かおもしろい本はないですか?」

初見でそう言われて、ゲンナリした。何も情報がないのに丸投げされても、答えようがない。

「好きな作家はいますか?」

それがわかれば、嗜好が予想できる。「すいません、本はあまり読んだこ

とがないんです」

そう言つて、素直に頭を下げたのには好感が持てた。

「実は、親にカンドーされましたね」

唐突に言われて「感動?」と問い返した。

「そう、カンドーです。やばい借金を抱えて実家の親に泣きついたら、金を出すから、もう二度と帰つて来るなど言われました」

## 下巻

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

現代御伽草子 ⑦9

あきふゆひこ  
亜木冬彦

「この本はどうでしょうか?」

薦めたのが五木寛之の「につぼん三銃士」だった。単行本の上下巻。安保闘争による学生運動が盛んだった時代を背景にしたドタバタ喜劇だ。

新宿の馴染みのバーで知り合った三人の男が、機動隊がデモを鎮圧する騒動に巻き込まれて東京を脱出。貨物列車に揺られて九州の博多に流れ着き、そのネオン街でひと暴れ……。

「この本は上下巻二冊で六百円だ。了解です。じゃあ、三百円」

小銭入れの中身をすべて取り出したが、一枚、パチンコ屋のスロットマシンのコインが混じっている。「五百円玉じゃなかったのか……。えーと、全部で三百三十五円か」

「おまけしましよう」

男がかぶりを振つた。

「もう借りは作らないと心に決めたんです。上巻だけ売ってもらえませんか?」

本代は上下巻二冊で六百円だ。

「了解です。じゃあ、三百円」

残つた本の扱いに困るので、本来はバラ売りにしない。なけなしの金をはたいて、本を読もうとする気持ちが嬉しかった。

「厚かましいお願いですが、下巻の方は取つておいてもらえませんか。また必ず買いに来ますから」

わたしは笑顔で頷いた。

「これでようやく続きが読めます」

愛おしそうに「につぼん三銃士・下巻」のカバーを撫でながら、ポツリポツリと今までのことを語り始めた。東京に戻つて、知り合いのホームレスの簡易テントに転がり込んだのだという。最初はアルミ缶の回収を手伝っていた。

「何か玄海ビールのようないネ

勘当なのだというやく気づいた。

「これから夜行バスで東京に帰るんです。眠れそうにもないから、本でも読もうかと思ひましてね」

そう言われてみると、うらぶれた容貌をしている。白髪交じりの長髪は寝癖がひどいし不精髭も伸びている。すでに秋も深まっていたが、薄汚れたポロシャツにテロテロのス

ラックスという姿が寒々しい。「もらいます」

財布を取り出した男の顔が曇つた。



「タはないかと考えたんです」

「玄海ビールは、「にっぽん三銃士」の中で登場するビールのカクテルだ。酒場で客の飲み残しの瓶ビールを回収し、空瓶に詰めなおして格安で販売する。アサヒやキリン、サッポロなどのビールの混合率を調節して、大手メーカーよりもうまいビールを作ろうと奮闘する。」

「それで、目を付けたのが本なんです。古紙業者の立場（タテバ）だと二束三文ですが、古本屋に持って行ったら、ものによっては意外に高く買ってくれることがあるん

です」

「領いた。資源ゴミとして出される古本にも、希少な本がたくさん紛れている。」

「ホームレス仲間頼んで集めてもらった本を古本屋に持って行くようになって、馴染みの店が何件かできましてね。その中の親しくなった店主が高齢で店仕舞いすると言うんです。親の代からの古書店だそうで、もったいないですねとおれが言ったら、じゃあ、あんた、やってみないかと声をかけられたんです」

「それだけ、人柄を信用されたということだろう。」

「店は自分の持ち物だから家賃はいらないし、光熱費と利益の半分を渡してくれればいいという好条件です。宿なしですから、店の中に泊まり込んで、懸命に働きました。本をわかりやすいように整理して棚を増やし、お客さんに訊かれても答えられるように、本もたくさん読みました」

「まさか、同業者になっていたとはな……」

「でも、商売は厳しいですね。おやじさん目当てで店に来ていた常連さんも多いので、売上も以前よりは落ちています。このままじゃだめだと

考えて始めたのが、貸本ボックス・システムです」

「聞きなれない言葉が飛び出してきた。」

「フリーマーケットの一箱古本市にヒントを得て、会社や店の一角に古本のカラーボックスを置いてもらうように営業したんです。本は毎月入れ替えて自由に読んでもらう。料金を設置して、気に入ったら買ってもらう。最初の三カ月はサービスで無料、その後は一月五千円のレンタル料金を設定しました。これが成功しましたね……」

「彼が腕時計を見た。」

「あつ、もうこんな時間か。これから家族で花見に行くことになってるんです」

「嬉しそうな笑顔で言った。勘当はもう解けたということか。」

「店を出る時に彼が振り向いた。」

「宮本と言います。本を取っておいでいただいて、本当にありがとうございます。ごさいました」

「どういたしましてと頭を下げた。古本屋だったら、「にっぽん三銃士」の下巻を読む機会はいくらでもあっただろう。それを我慢して、約束を守ってくれた。宮本さんの下巻は始まったばかりだ。」

## まちの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
  - ・地元の絵葉書、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は2月でも開店します。

●庄原市中本町 2-1-10 ●定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）  
●TEL: 090(9913)3052 ●営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

# 「旧暦」のカレンダーを見る

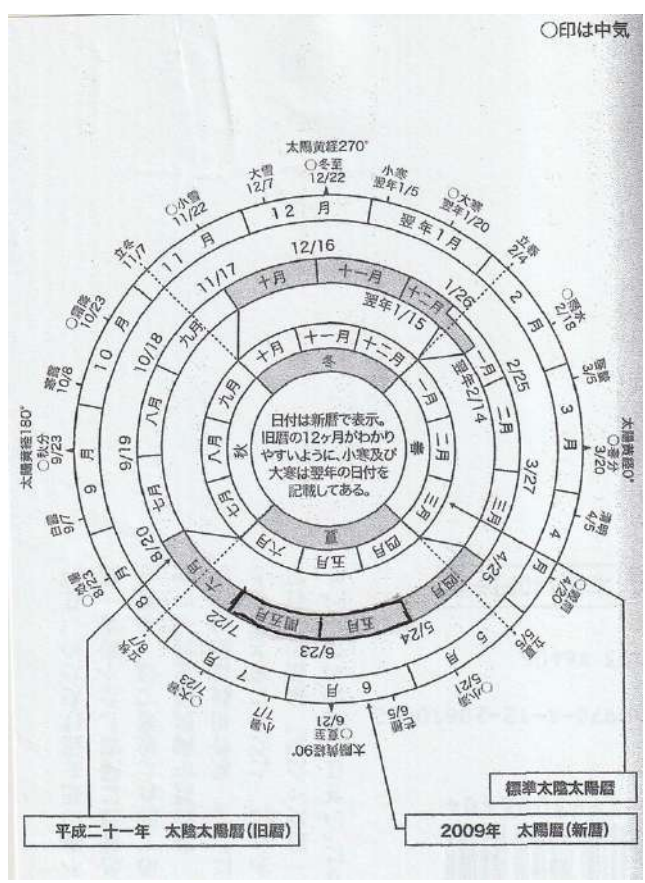
古川 行洋

八 閏(うるう)について

この「閏」が普通「こよみ」の関係で、「閏月」「閏年」というように使われている。「閏」というのは、俗語で「中国では、閏月には、王様は宮殿で休むことが叶わず、町中の何処かの門の下で休まなければならなかった」という。まさに、これは異常な状態である。これを暦学にあてはめれば、季節と暦月との差を調節するため、

平年より余分にもうけた暦日・暦月のことになる。

地球が太陽を一周するのは三六五日五時四八分四六秒だから、その端数(五時間四八分四六秒)を積んで、太陽暦では四年目に一回(オリンピックの年)、二月の日数を二八日に一日足して二九日(この日を「閏日」とする。この月を「閏月」と呼び、この月が入った年を総称して「閏年」と呼んでいる。



平成 21 (2009) 年の新暦旧暦対照図 (ASPA オリジナル)

太陰太陽暦では、平年が三五四日なので、適当な割合で一年を一三カ月にする年ができてくる。「閏」が使われるのはこの太陰太陽暦・旧暦で、一年が一三カ月になる年を「閏年」と言い、通常一三カ月なのに同じ月を二度繰り返した、あとの月を「閏月」と呼ぶ。まさに、今年、令和五(二〇二三)年二月がこれである。

ごく古い時代には、農耕の期間だけこよみが必要で、秋に収穫が終わるともうよいわけで、翌年春になって、またこよみが始まる。ということは、一年というものが、今年から来年へ連続して行かない。つまり、稲の栽培期間で、収穫を持って終るといったものだった。

紀元前五〜六世紀になると、東の中国、西ではギリシャ他で天文学が発達して、一太陽年の長さも一朔望月の長さも次第に正確に測定できるようになった。一年がきちんと連続して循環する暦法になると、閏月はだいたい三年に一回の割合で年末に置かれるようになった。中国ではこれを「第十三月」、ユダヤ暦では「第二アダル月」と呼んだ。

月の満ち欠けをもとにする太陰暦では、十二カ月は三五四日にしかないの、毎年、本当の一太陽年

との間に約十一日のズレがでてくる。そして、三二〜三三カ月経つと、この差がちょうど一カ月分になるので二九〜三〇日の「閏月」を設ける。こうして、こよみの日付けが、実際の季節より進みすぎないように調整しなければならぬ。

それで、「閏月」を置くのに、もっと正確なルールが必要になってきた。ギリシャでは、天文学者メトン(ちじゅん)法を工夫した。中国では、これに当る章法が打ち出され採用された。ともに、これらは、だいたい三二〜三三カ月に一回、あるいは二年九カ月に一回、「閏月」を置くという正確なルールが必要になり「中気(二十四節気のうち)を含まない月を閏月とする」という規則が考え出されたのである。

旧暦で、過去の閏年を観てみると、気象関係で予想が七割強的中している。閏年やその翌年は気象が荒れやすいと言われている。詳しくは書けないが、平成二一・二二(二〇〇九・二〇一〇)年を振り返れば、確認できる月がある。

先ほども記したが、今年(2009)は閏年である。

シニア海外ボランティア・エピソード④

## 「観光ツアーの企画立案 学生活用で大成功！」

山崎 允まこと

先月号で、故障した車を押す写真  
を載せたが、その車に限らず、ザン  
ビア共和国では日本車をよく見かけ  
る。かなりくたびれた中古車が多い。  
ボディには日本語で会社名がペイン  
ティングされている。ドライバーに  
尋ねると、「これがいんだよ！」と  
ニヤリ。意味はわからないのだろう  
が、彼らにとって馴染みのない日本  
の漢字は、どこか神秘性を感じさせ  
るのかもしれない。

日本に送るから写真を撮らせてく  
れと言ったら、手を振ってポーズを  
取ってくれた。日本にいるこの車の  
元の持ち主がこの写真を見たら、懐  
かしくなってザンビアまでやって来  
るかもしれない？

さて、私の当地での活動であるが、  
ルサカはザンビアの首都でありなが  
ら市内定期観光ツアーがなかった。  
そこに目をつけて私案を練っていた  
ところ、観光省直営の観光専門学校  
の校長先生がこの話に乗ってきた。  
5月3日を目標に調査と打ち合わせ

を重ねてきた。そして、いよいよ出  
陣式のセレモニー。私が飛び込みで  
「セールス&挨拶」に伺ったルサカ市  
長が胸に勲章を付けられ、観光省の  
Permanent Secretary (事務次官)  
やJICA所長の方々が出席される  
中、私の企画に賛同、協力していた  
だいた(半分はねだって)25人の在



住日本人の乗客が参席。

学生達合唱団の「国歌」そして「出  
陣の歌」、来賓の挨拶、そしてリボン  
に欠入れ、そしていよいよ出発！  
日本人でも英語の方がよいという人  
達には英語の説明、日本語の説明は  
私が担当し、博物館、大聖堂、マーケッ  
ト、木工芸品村をマイクロバス2台、  
他の1台には観光省の関係者に乗せ  
て観光した。マーケットではスリヤ  
引ったくりに会わないように制服の  
警官2名がAK45銃をむき出しで  
警戒(それだけ「観光」は重要視さ  
れている)、1名の私服警官が護衛し

ての「大名観光」だった。

観光専門学校の卒業式に招待され  
た時のこと、合唱団の歌が気に入っ  
たので大聖堂での合唱を申し出たこ  
ころ、校長先生は即座にOK。この  
企画、当たりました！ 私の発案で、  
学生ガイドを売り物にした市内ツ  
アーを行っていた。本来の案内等は  
まだ未熟だが、そこは「学生」とい  
うことでお客様からのクレームを和  
らげようとした私の「ずるさ」があ  
る(苦笑)。でも指導は厳しくしたつ  
もり。

その学生の彼ら彼女たちに、毎週  
日曜日、教会で鍛えてきた賛美歌、  
ゴスペルを披露してもらった(原価  
無料!)。大聖堂にはお礼の代わりに  
学生達が一週間に一度掃除に行く。  
昼食は学生達が作ったザンビア料理  
「シマ」を学校(学生が調理、フロ  
ントを担当)で食べてもらう。参加費  
用は45ドルに設定。しかし、それか  
らが大変だった。毎日の運行を継続  
するために、ホテルへ営業に行かな  
ければならない。実習を兼ねて、学  
生達も同伴させた。しかも、学生主  
体のツアーなので、送客に対するホ  
テルからのコミッション(謝礼)は  
なしだった。

# どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

すかんぽを手折りて昭和懐かしむ

近藤 昌平

父母の遠き記憶や朧の夜

富久光

花吹雪くこの古里を去りがたし

片岡 正人

雪解けや西城川は太忙生たいぼうせい

隆愚

生き延びしあの野良猫も恋の猫

大槇 三代子

子供らの遊ぶ声する春の暮

寺内 龍二

廃校の誰もいない校庭にも春

赤川 冬人

吾は古文孫はスマホと教えあふ

松岡 初枝

世代を超へてひととき楽し

## 投稿&寄稿

候のことばうぜんちや

隆愚

「雨前茶」

季節の七十二候で「清明」という

のがあります。おおよそ四月四日から四月十九日ごろです。全てのものが清らかで生き生きとする頃の事。

若葉が萌え、花が咲き、鳥が歌い舞う。生命が輝く季節の到来です。海を渡って、つばめがやって来る頃。日が暖かくなり、雁が北へ帰って行く頃。春の雨上がり、空に初めて虹がかかる頃。

中国は、清明が訪れる頃より手前に摘んだ茶葉を、明前茶といいます。爽やかな香りに、ほのかな甘みのあ

る味わいで、日本でいう一番茶のよ  
うなもの。そして、清明の頃に摘ん  
だ茶葉は雨前茶といえます。明前茶  
より味わいにボディのある茶葉が  
とれます。また春分前に摘まれた茶  
葉は分前茶と呼ばれ、最上のお茶と  
されますが、気候が寒い年はとれな  
い事もあります。雨後の虹が現れ始  
めるこの時期は、新茶の季節でもあ  
ります。

今来た顔と顔を並べるつばめかな

小林一茶

「シャバット」 赤川仁洋

ユーチューブで、衝撃を受ける動  
画に出会った。アインシュタイン、  
フロイド、ボブ・ディラン、スピル  
バーグ等々、ユダヤ人の偉人、ある  
いは著名人は数多い。世界人口のわ  
ずか0・2%に過ぎないユダヤ人が、  
ノーベル賞の約20%を占めていると  
いうデータもある。

ユダヤ人が信仰するユダヤ教の最  
も重要な戒律と言われるのが「シャ  
バット」、安息日と訳される。一週  
間に一度のシャバットの日には、何  
もしないで過ごす。心身を休息させ  
るのはもちろん、解説での「魂を休  
息させる」という言葉が胸に刺さっ

た。

本の整理や雑務に追い立てられる  
日々を反省、毎週木曜日を自分の  
シャバットの日に決めた。店の営業  
日だが、接客以外の業務は何もしな  
い。本を読んだり、パソコンで動画  
を見たり、映画を鑑賞したりしての  
んびり過ごす。

で、その結果であるが、本誌の編  
集等でシャバットできない週もある  
が、毎日にメリハリができて仕事も  
はかどる。ノーベル賞受賞も近い？



# どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

● **一 硬式テニス参加者募集** ●  
MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)  
場所：三次運動公園の屋内&屋外コート  
・火曜日 (9:30 ~ 12:00)  
・水曜日 (9:30 ~ 12:00)  
・土曜日 (10:00 ~ 12:00)  
連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



## 《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
  - 教室&講座案内
  - イベント情報
  - あなたの大切な本の紹介
  - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- ※応募先はどら書房・赤川まで。  
掲載は無料です。

## どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## 「ぐんぐん伸びよう会」 (教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

子どもたちは、学校で一斉授業を受けていても、一人ひとりの持っている能力は  
バラバラですね。子どもたち一人ずつに合わせた学習によって、「できる」が増え  
ていきます。「できる」が自信の源。

もっとチャレンジしてみたい、と思ってもらうためには、年齢に合わせて  
個人別に合わせる必要がありますね。

**無料体験学習受付中!! お気軽に問い合わせてくださいね。**  
**対象者：0歳～小学6年生**



## 徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な  
活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品  
の展示販売を、どら書房の一角でしていま  
す。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を  
展示しています。あなたのお気に入りの逸  
品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意!

## どら書房無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売(値札のないものは百円均一)。  
毎週水曜日の朝に入荷予定。

● **黒ニンニク好評販売中!** ●  
(青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。  
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの  
効果が期待できます。

(80g入り 500円)

※売り切れのときはご容赦ください。

発行：どら書房  
〒727-0012  
庄原市中本町 2-1-10  
☎090(9913)3052(赤川)  
e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183  
協賛: 九日市愛好会

◇野球の侍ジャパンのWBC  
優勝、盛り上がりましたね。  
科学的トレーニングを取り入  
れて、体格で見劣りがしなく  
なったのが頼もしいです。広  
島の選手がいけないのは残念で  
すが、新生新井カープに、ペ  
ナントレースで期待!  
◇桜の開花が早いですね。今  
は三月末ですが、もう満開で  
す。のんびりしていると散っ  
てしまいます(苦笑)。

## 編集後記

◇春になり、新年度の  
スタートですね。本誌  
も8年目に入ります。  
◇先月号の「中村慎吾  
先生の死を悼む」で、  
「白根秀之先生」は「白  
根英之先生」、「庄原実  
業高校時代比和分校」  
は「庄原実業高校比和分校」  
でした。訂正させていただきます。

第259回

くunchiichi

# しょうばら九日市

## 〈出店一覧〉

- \*文屋
- \*お福
- \*郷屋
- \*工房アム
- \*ぬくもり
- \*ちくちくはうす玉手箱
- \*和み屋
- \*クラフトショップ
- \*くららおばさん
- \*つちあそび器楽

- \*農楽会
- \*二八そば加工所
- \*17KITCHEN
- \*アーミツシュ
- \*ふくふく牧場
- \*満じいの手打ち蕎麦
- \*とらぢ
- \*健康企画グループ
- \*TSUDA
- \*里山キッチンほっぺ

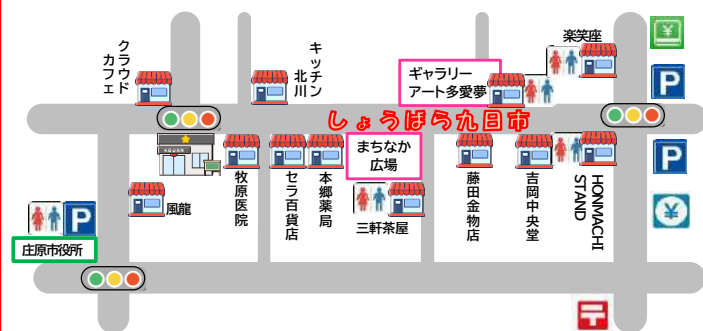
- \*克國水産
- \*久代水産
- \*くんえん工房 香豚
- \*どんぐりーず
- \*田崎屋
- \*宮川屋



2023年  
4月9日(日)  
9:00~13:00

## 陶芸ワークショップ開催!

※有料・品物は焼き上がり次第、  
自宅に届きます。



## TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」  
4月8日(土)~4月10日(月)10時~15時  
伝筆(つてふで)and デザインアート展
- ★楽笑座「うた声喫茶」開催 13:30~15:00
- ★どら書房→休憩所あります!!
- ★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!
- ★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き
- ★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き  
九日市特製ピタサンド600円

\*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,000円~  
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285  
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10(楽笑座内)

【ホームページ】  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

